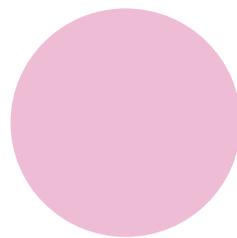
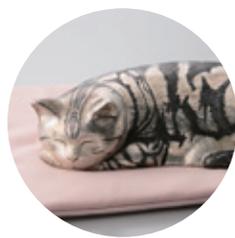
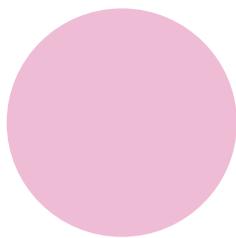
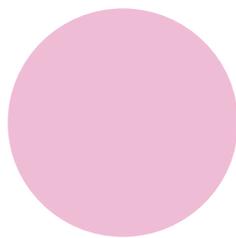
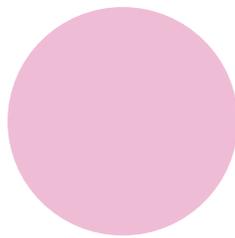
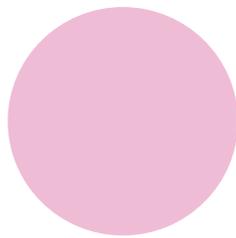




B U N K A Z O U K E I



ごあいさつ

造形学部はデザイン・造形学科と建築・インテリア学科の2学科で構成されており、それぞれの専門分野でモノづくりやデザインの追求に励んでおります。そして、それらの成果を学内外に公表し、評価いただくことを目的に、年間多くの教育行事を設けております。たとえば、本学部の特色である「新宿・渋谷の立地を生かした都市型連携教育」や「地域連携型教育事業」、学科ごとの「プレゼンフォーラム」などがあり、また4年間の教育成果発表の最大の機会である「卒業研究展」では卒業生全員の作品や論文を4日間にわたり展示・開催しております。

この報告集は、これら年間を通しての多様な教育活動の中から、「卒業研究展」を中心に主だった活動を1冊にまとめたものです。広く皆様にこの報告集をご覧いただき、多くのご意見、ご指導をいただいて本学部の新たな展開につなげてまいりたいものと期しております。

本学部の日頃の教育事業にご協力いただいております多くの方々に御礼申し上げますとともに、今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

造形学部長 堀尾 真紀子

デザイン・造形学科

本学科では、幅広いコースがそれぞれ専門性を深め、感性をはぐくみ、技術を磨いています。

社会と人々の生活を基盤としながら、視覚情報や生活用品、雑貨のデザイン、雑誌や書籍の編集制作、金属や七宝による造形表現、染めと織りによる作品制作、独創的なアート作品づくり、映像やアニメ作品制作など様々な取り組みを行っています。

平成28年度からは、よりデザインを中心とした新しいコース編成へと移行し、豊かな暮らしづくりへの提案を目指していきます。

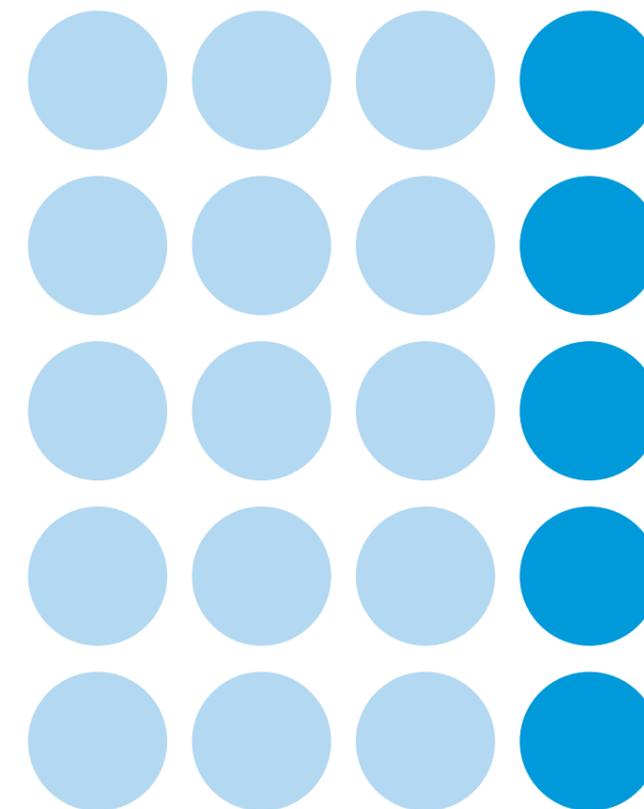
建築・インテリア学科

本学科では、広い視野と豊かな感性を養いながら、生活者の視点を重視したデザインの出来る人材の育成を目指しています。街づくりや生活の拠点となる集合住宅や独立住宅、ショップや各種施設、さらには空間を演出する家具・照明器具・インテリアファブリックまで幅広く扱い、コースに分かれて専門を深めながら合同のプロジェクトにも取り組みます。

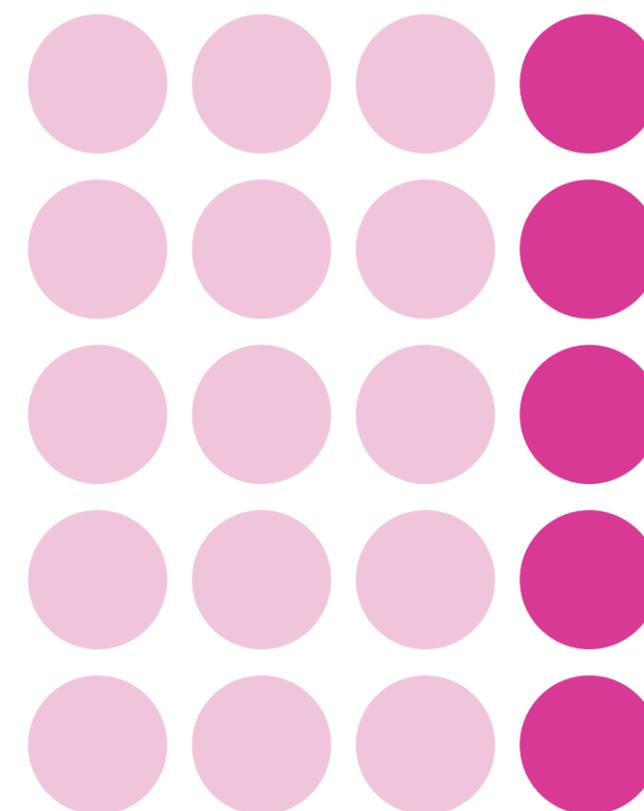
平成28年度にはコース編成が新しくなり、ひとり一人の個性や感性を大切にしながら、幸せの空間づくりを目指します。

もくじ

卒業研究優秀作品	1
グラフィック・プロダクトデザインコース	2
メディア編集デザインコース	4
テキスタイルワークコース	6
ジュエリー・メタルワークコース	8
アートワークコース	10
建築デザインコース	12
住居デザインコース	14
インテリアデザインコース	16
インテリアファブリックコース	18
会場レポート	20
造形学部プレゼンフォーラム	21
学外連携	27



卒業研究 優秀作品集



学長賞

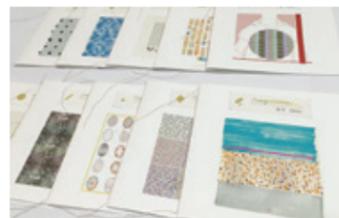


私の“はじめて”

自分の体験を絵柄にしたプリントデザイン

信氏 優希

デジタルプリントと手描き 1000×1000mmの布 10点



解説

私がこれまで生きてきた22年間に体験した様々な「はじめて」をテーマに、布のプリントデザインを制作した。素材を布に選んだのは、幼い頃から服や鞆が好きだったこと、布の柔らかさが手描きのラフなディテールに合致したからである。これからも身におこるであろう「はじめて」のことにひとつひとつ立ち向かうつもりだ。作品を見ていただく人にも、自分の「はじめて」に思いをはせるきっかけになって欲しいと願っている。

プロセス

それぞれのテーマのデザインを仕上げている中で、全体のバランスを取るのが難しく、デザイン案で悩む事が多かった。そんな時にはまず手を動かして、様々な手法を試していくと、自分が納得できるデザインが出来ることを知った。データが布にプリントされた時の喜び、布に金の箔が付いた時の感動、布1枚1枚に多くの行程を経て作品を完成させる達成感を感じた。

講評

作者はこの作品で、幼少からの個人的な体験や想いを振り返り、それを形に留めようと試みている。取り上げた10の物語は日常の中で起こった出来事や思い出なので、極めてプライベートなものだ。そのひとつひとつを抽象的な色や形、軽妙な描線や絵柄などに丁寧に置き換えていくプロセスはたいへん見応えあるものであった。絵画的な作品ではあるが、布へのプリントということで軽やかで大きな印象に仕上がっている。

ハンドメイド雑貨屋さん

不思議の国のアリスシリーズの展開

下山 実穂

解説

架空のハンドメイドアクセサリーショップがあると想定し、不思議の国のアリスをイメージしたブローチやチャームなど15種類のアクセサリーをデザインした。なかでも、お菓子をモチーフの中心とし、アリスが大好きな女の子たちに身につけてもらえるような可愛いアクセサリーになるように心がけて制作した。また、ショップの売り場自体もアリスの世界観が伝わるように立体的なポスターや飾り棚などもあわせて制作した。

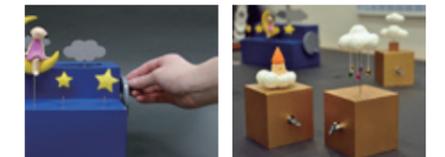


安らぎをくれるカラクリおもちゃ

吉沢 美咲

解説

カラクリおもちゃの魅力に惹かれ、手回しのカラクリおもちゃ2点と、ゼンマイ式オルゴールのカラクリおもちゃ3点、計5点を制作した。おもちゃは、ハンドルを回すと雲とカモメと星が動いたり、ゼンマイを巻くとオルゴールが流れ、それに連動してオーナメントが回転する仕組みになっている。私の好きな幻想的な世界観と安らぎを表現するために、5点全てのオーナメントに自然の雲や「空を飛ぶ」などといった要素を組み込んだ。



心躍るハンカチの制作

長山 詩織

解説

日常の心躍るものや瞬間を、ハンカチに落とし込んだ。毎日の些細な喜びや感動、わくわくする気持ちをこれからも見逃さずに、しっかりと見つめられる自分でありたいという思いを込めて制作した。これらは私のものづくりの発想の原点であり、私が目指すものづくりそのものである。理屈無しで、見た瞬間に直感で「いいなあ」と思わず笑みがこぼれるような、気持ちの良いものをこれからも自分の手でつくっていかれたらと思う。



学長賞



ありきたり スコシフシギまんが短編集

岩岡 梓

右綴じ、くるみ製本 A5、120 ページ



解説

「ありきたりな私の、ありきたりじゃない日常」をテーマにフィクションのまんが本を制作した。しがない定食屋の店長や、会社の編集部で働くOL、夏休みの宿題をギリギリまで溜め込んでしまった小学生など、ありふれた日常にいるような人々を主人公に、彼らの日常に溶け込むスコシフシギな出来事を、ゆるいコメディタッチで描いた。読んだ人がグッと笑って、自分の本棚においておきたいような本を目指した。

プロセス

ほとんどのお話は通学中の電車の中で考えた。ぼーっと車窓から町を眺めてネタを考え、それを描き起こし、修正を重ねた。そしてひたすらその作業を繰り返していた。一見ありきたりだけれど実はありきたりじゃない、という矛盾や違和感を出すために、紙をお話ごとに変えたり、まんがのコマの外にも絵を描いたり、装丁デザインにも様々な工夫をした。自分がやりたい表現や技法を用いて、自分が思うおもしろいものをとことん詰め込んだ。

講評

本編は、副題にもあるように少し不思議なお話で、キャラクターもストーリーも決してアリキタリには登場しない。では何が在り来たりなのか? ドキドキハラハラな展開も劇的な大ドンデンも用意されていないのがリアルな日常。このありふれた日常と同じテンポで淡々と時間が流れる本紙面の、こちら側と向こう側の世界を行ったり来たり。そして違和感のない滑らかな通過を可能とするのが「少々不思議社」製のドア「アリキタリ」なのである。

たかが彫って、されど彫って。

消しごむはんこを10年間彫り続けたまとめ

石塚 彩香 オリエンタルバインド、ソフトカバー
165 × 234mm、104 ページ

解説

消しごむはんこを始めてから、10年目。その記念と学生生活を締めくくる作品として、図案ではなく「版が主役」の作品集を制作しました。「版が主役」にこだわった理由は、現在出版されている消しごむはんこの本が全て印面を取り上げた「図案集」であること。消しごむはんこは印面だけでなく「版」も含めて作品であると伝えたくったことにあります。本編では写真をメインに構成。日々感じていることなどをテーマにし、ひとつとして彫り方や見せ方が被らないように制作しました。また、本編帯内に収められている付録「ひとりごと」には作品の解説などが綴られています。



Nemu

Dictionnaire visuel des onomatopées

川上 知香

丸背製、無線綴じ
196 × 186mm、213 ページ

解説

「きらきら」「すやすや」など擬音語や擬態語は可愛い響きと、それでないと表現できないニュアンスをもった言葉である。擬音語と擬態語を総称してオノマトペという。日本語にはこれらの言葉が非常に多く、海外でも日本の魅力のひとつとして注目されている。特に擬態語は、実際には音のない感情ややすやすを言葉として音にしたもので、情感深い日本人らしさがあらわれた言葉である。この本は、オノマトペの意味を頭と心で理解するためのビジュアルディクショナリーである。



紙だからできること

田村 里佳子

エンボス、スキャニメーション等
全10ブロック
130 × 230 × 230mm

解説

紙媒体はデジタル表現に押されて来ています。デジタル表現は均一で美しい方法ですが、その反面、記憶に残りにくい気がします。しかし、紙など物質的な物は、例えば使い古したマップや折り目を入れたお気に入りの誌面など、動作や触覚とリンクしてビジュアルと情報内容が記憶に残ります。「記憶に残る」ということは表現として強いのではないかと考え、紙を用いたさまざまな強い表現を追求しました。



学長賞

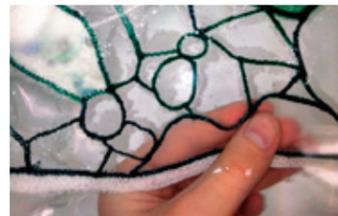
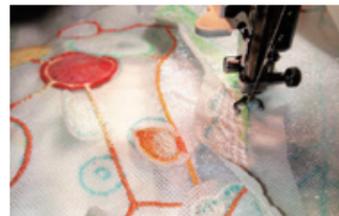


ミシンワークと羊毛フェルト

色と素材をテーマとしたタペストリー

加藤 涼

ミシンワーク・羊毛フェルト・絞り染め等 1200 × 1400mm



解説

色は大切な情報であり、心を豊かにしてくれる必要不可欠なものだと思う。けれど、普段は好みの色ばかりに注目しがちでもったいないと感じたことからカラフルなものを作ってみようと考えた。同時に、コースで学ぶ中で最も興味を持った羊毛フェルトを中心として布等と組み合わせることで、素材を感じるような作品を目指した。集大成という以上に、卒業後の第一歩に繋げたいという思いを込めた。

プロセス

水性シートにミシン刺繍を施した後、シートを溶かして刺繍のみを残すミシンワークと、羊毛から作ったフェルトを組み合わせた。それぞれの技法を用いた面を市松模様のように交互に並べることで透ける部分とそうでない部分をつくり変化を出した。ベースのフェルトは、絞り染めによってグラデーションになるように染めた後、刺繍やパッチワークを加えた。多くの色を使用したので、全体のバランスに注意しながら制作した。

講評

作者は以前から素材と表現、自分らしいモノづくりについての意識を高く持っており、多くの技法を高いウオリティでこなしてきた。特にハンドメイドフェルトに興味を持ち、早い段階から試作と実験を重ねて準備を進め、今回の制作に臨んでいる。2つ設けたテーマに加え、刺繍、絞染、ミシンワークなど、ともしれば雑多になりがちなのをバランスよくまとめ、作者らしい柔らかな色のハーモニーで作品表現することができた。

自然の色

沖縄をテーマにしたテキスタイルの研究

山内 椎菜

植物染料・型染め、絹
1000 × 1820 × 40mm

解説

生まれ故郷である沖縄をテーマに、沖縄に自生する植物を使い自然の色を表現することを目的とした。採集した生の立泡雪梅檀草とサトウキビを自らの手で染料とし、使用する植物をモチーフに図案を考え染色した。染色技法は型染と絞り染を用いて、媒染をアルミ銅鉄の3種類使用することで発色の比較をねらった。身の回りに自生している植物は色素を含んでいるので染料として使うことができる。身近な生活の中に自然を楽しむ染色があるということを伝えたい。



枯山水ラグ

室内装飾

吉江 歩実

綴織など、羊毛
1800 × 1800 × 150mm

解説

大学生活で日本美術に惹かれたということと、卒業研究として大作に挑戦したいということから、「枯山水」をテーマにした大型のラグを制作した。枯山水特有の波模様は、凹凸が激しすぎないように綴織、チェイニング技法で表現した。苔の部分はノッティング技法を使用することで、立体感を出すことができた。また、ラグにアクセントを加える赤い庭石をイメージしたクッションも制作した。

Meri

命の尊さを伝えるためのテキスタイル

解説

保護犬である「めり」を飼い始めてから命の大切さについて考えるようになった。家に来た当初の怯えた表情が、年月をかけてリラックスしていく様子をスケッチし、スクリーンプリントによるテキスタイル生地で表現した。これをカーテンとクッションに仕立てた。また、めり自身の毛を素材とした手紡ぎの糸でブランケットを編んだ。さらに全体のテーマを文章でわかりやすく伝えるため、同柄の生地を表紙とした絵本を制作した。



升本 道子

捺染・手紡ぎによる編み・手製本、綿・犬毛等
2400 × 3500 × 500mm





Mystic Jungle

星野 紀也

彫金・精密鑄造/シルバー、銅、真鍮、半貴石 230 × 200 × 45mm

学長賞



解説

大学生生活4年間の道のりをジャングルに例え、険しい道のりでも、歩んで行く中で自分にとって大切なものを沢山得ることができた。どんな困難な時も諦めず歩み続け夢を叶えていこう、という意志を込めて制作した。

ジャングルを支配している大蛇が木々に絡みつき、共生する蜘蛛や蝶と共に宝であるタマゴを護っている。その中には自分がずっと追いついていく夢をつめられるように、ロケットペンダントとして写真を入れるようにした。



プロセス

蛇本体は、銀板からパイプを作り頭部から尻尾へと太さに強弱をつける。頭部はワックス原型から鑄造し、本体とつける。枝も同様にパイプを作り、表面に真鍮のチップを溶着させる。これらを首の形に合わせて曲げていく。蝶、葉、蜘蛛のパーツをそれぞれ制作し、本体にロウ付けし、巣はチェーンで編んでさげる。ロケットはタマゴ型に形成し、パイプで蝶番を作り、開閉させ、本体に取り外せるようにセットする。枝の一部に磁石を内蔵し、クラスプとする。



講評

銀の蛇が首のラインに美しく沿うようにカーブして、枝となる銅のパイプが絡みつく。小さな生物が止まってジャングルの宝を守る構図は、まとまりが良く装着した時のバランスが緻密に計算されている。中心に下がるタマゴ型のロケットは、構造上の研究を十分に行い、作者の夢が詰まった宝物を表現している。未経験の技法に大いにチャレンジし、石留からテクスチャーまで、細部に至るこだわりを持ち、完成度高くまとめた優作である。

ねこ“ぎんちゃん”

鈴木 沙織 銀金・彫金/銅・銀メッキ 115 × 270 × 80mm

解説

飼猫が前足を枕にして寝る仕草がとても可愛いのでモチーフに選んだ。

粘土の原型で、一枚の銅板を絞ってつくるのに適した塊に近い形を検討し、実物より小さいサイズで制作した。

銅板を当て金と金鍍金を使ってたたき立体的な猫の形を形成し、様々な鑿で顔の表情や毛並みを表現した。仕上げは、銀メッキした後、金古美液でいぶして濃淡をつけ、更に膠を溶かした墨で縞模様を毛並みに合わせて描き、柔らかい猫の雰囲気を出した。



Compact mirror

rose magic

田島 さと子 有線七宝/銀、銅 75 × 70 × 15mm 他4点

解説

魔法使いの鏡というテーマで、少しダークでミステリアスなデザインのコンパクトミラーを制作した。薔薇の花には色ごとに違う花言葉があり、そこからおまじない効果を連想し薔薇以外のモチーフもそれぞれの効果に意味を合わせた。背景のグラデーションは、時間を表現し朝、昼、夕、夜、夢で効果が1日中続くという意味を込めて制作した。おまじないの効果に頼るのではなく持ち歩くことで目標を思い出せるようなものを作りたいと考えた。

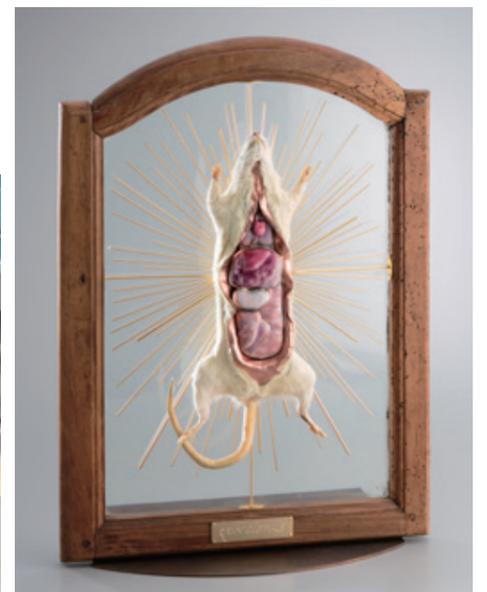
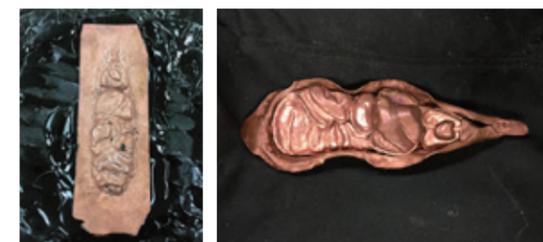


白い追憶

鈴木 映見 彫金、七宝/銅、真鍮、銀、ラット 460 × 330 × 220mm

解説

かつて疫病の媒介者として人類にとって悪魔的起源をもつネズミは、現代では医学の発展のため実験動物として不可欠な存在となっている。その姿はかつての罪を償っているように思える。多くの犠牲と引き換えに贖罪した姿を、十字架刑をオマージュした光背に解剖したネズミを隣り付け、内蔵を七宝で表現し、宗教画をイメージした額に組み立てオブジェとして制作した。





窒息

宇津木 千尋

木彫/楠 h750 × w1300 × d920mm

学長賞



解説

金魚は水面では美しく流れる様に泳ぐが、外にでた時には水面にいた時とは異なり、荒々しく跳ねる。最後の卒業制作ということは四年間の区切りである時期に頭から作りたいものが、ぼったり出てこなくなりました。それがあったからなのかその時の私自身をシンプルに表現しようと考え制作した。今まで金魚を取り入れての制作は多くあったが、金魚単体で作品を作ることはなかった。そして、これはその時の息苦しさから生まれた形だ。



プロセス

私にとって木は体力、技術、表現など様々な面で努力が必要な素材であった。モデリングとは違いカービングは失敗してしまうと修正が困難であるため最初のチェンソーの作業がなかなか進まなかった。それでも失敗する覚悟や思い切りを持ち、考え工夫し作業を続ける事が重要だった。鱗や目、鱗をこだわらかった為、自分が表現したい所を曖昧な形のままにするのではなく鑿で彫り、形を突き詰めることで自分の納得する形に仕上げた。



講評

「金魚」は水中で泳ぐ様は美しいが、どこか実体感が希薄で曖昧な趣がある。そんな捉えどころがないモチーフを、木彫という重量感のある素材で挑んだ大作である。リアルながらも水中を真っすぐに泳ぐのではなく横に倒れ、ある意味、生命活動を打ち消したかのように見えるが、逆に別の「命」を感じさせる面白さと、見る者にイメージーションをかき起こさせる。説得力のある力強い作品である。

すずきざうるす

鈴木 里奈 木彫/楠、ダンボール、紙粘土
h750 × w660 × d1300mm

解説

最初に作った恐竜は手のひらサイズだった。それから今日まで何匹もの恐竜を制作したが、その都度彼等はどんどん成長し大きくなっていく。そして今回ついに、私1人の力では支えきれないほどの大きさにまでなってしまった。彼らの身体の素材は十四十色で、ある時は石膏、またある時は陶。そして今回は一本の丸太から彫り出されている。彼達の成長は止まらない。そしてその成長は私の学生生活の学びそのものだ。

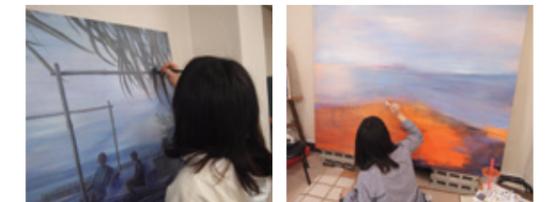


caohagan

伊藤 美夏海 油彩/キャンバス 1303 × 1620mm

解説

この作品は、フィリピンのセブ島からポートで40分くらい離れた所にあり実際何度か訪れているカオハガン島で見た風景をテーマとし、沈むと空には想像できないような満天の星空が広がる少し前の夕日をモチーフにしている。綺麗すぎてありきたりだとも思ったが、生きてきた中で一番感動して気持ちの良い景色だったのでこれを制作する事に決めた。未来の私が振り返ってこの絵を見た際、大切にしていた当時の気持ちが湧き上がってほしい。

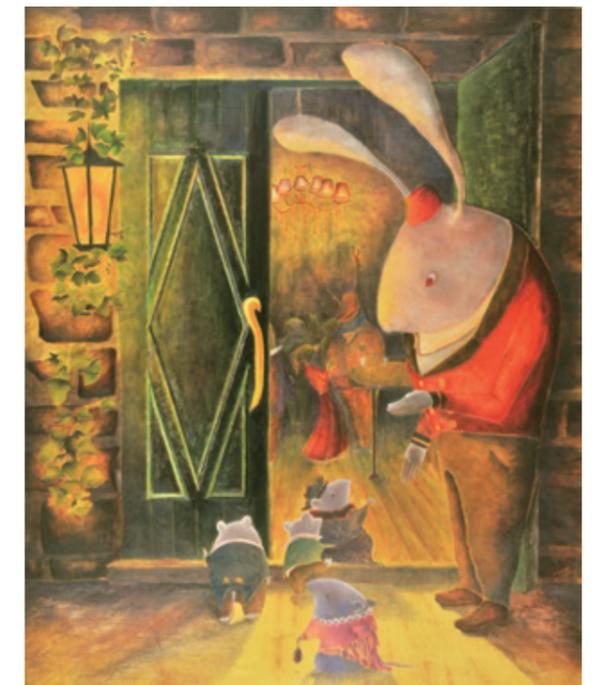


ようこそ

本庄 沙妃 油彩/キャンバス 1620 × 1303mm

解説

私は人間ではない生物が人間のように暮らしている絵や絵本が好きであることから、不思議な雰囲気を持つ暖かみのある絵にしようとして、描き始めた。途中、怪しげな表現も加えたかったため、お店の周りを暗くし、キャラクターたちが暗い中から浮かび上がって見える様に描き進めていった。絵の中の扉の大きさは人が実際通れるくらいのサイズなので、見ている人にもお店に入る様な雰囲気を感じて欲しいと思っている。



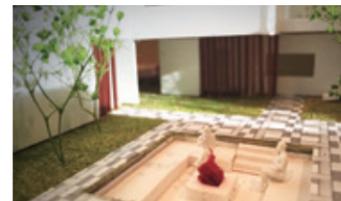
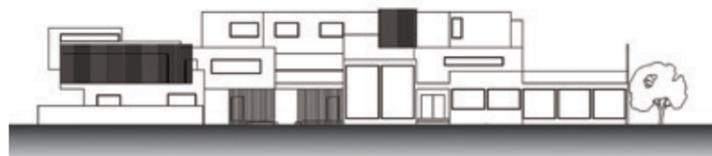
学長賞



U&I

アナタとワタシのシェア生活

高 昉廷 [制作]

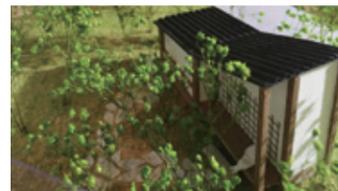


解説

現代の多元化した都市を表現する形として幾つかの塊をパズルのように組み合わせさせた。1つの住棟を4-5人のグループでシェアし、それぞれ共有スペースを持っている。その前に広がるシェアガーデンは近隣の人と一緒に野菜やハーブを育てる。それ以外に誰でも利用可能なカフェ・レストラン、シェアガーデンのあずまや、シェアハウスのいりり・プール・バーベキュースペースは、多様なコミュニケーションの場になるだろう。

プロセス

日本に住みながら寂しさや日本についての情報不足、交流空間の不足を感じた。しかし、私と同じく留学生である友達にシェアハウスに住んでいて日本の色々なことを知っていた。周りに日本人の知り合いがいて、多くの部分を共有することで、私より豊かな生活になったのだ。それで、住居環境を共有することは、お互いに情報や感情など特別なきずなを築くことができるのではないかと思い、自然に生活を共有するにふさわしい空間を計画した。



講評

世界であらゆるシェアが広がっている。国や民族の単位ではなく、自立した個人通しの実質的なコミュニケーションが必要とされている。作者は留学体験を通して社会の兆候を感じ取り、卒業研究のテーマとした。プライバシーと快適な日常生活を守れそうな居住空間をランダムに配置して、そのすき間に数人のコミュニケーションが生まれやすい場所をつくっている。目の前に広がる菜園には近隣住人も引き込む。個から複数へ、友人から他人へと信頼の輪が自然に広がるように極め細かく設計している。

月虹

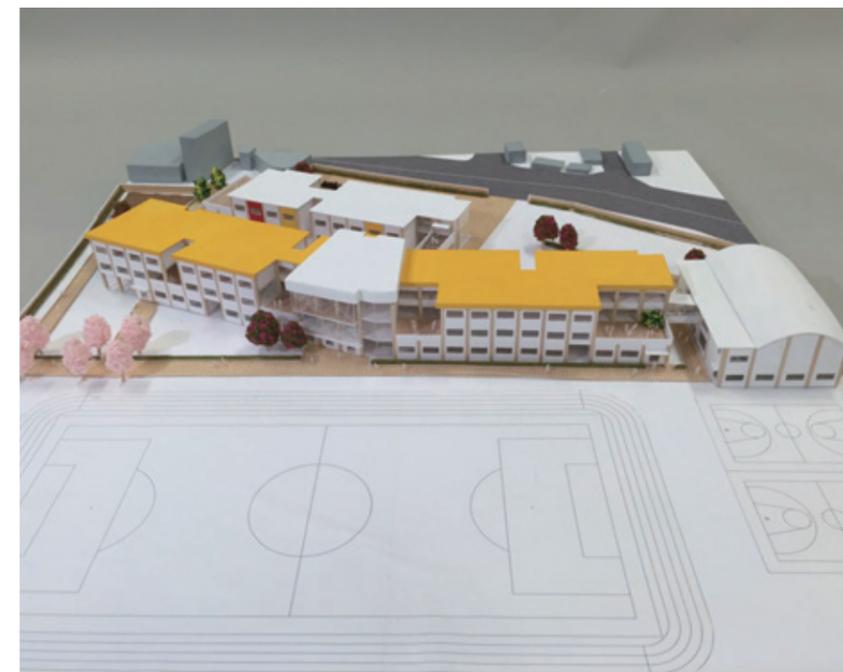
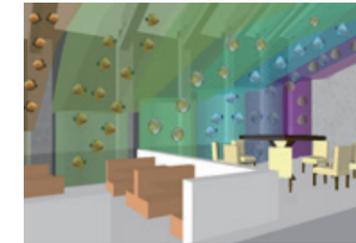
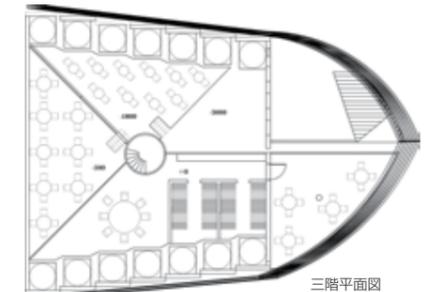
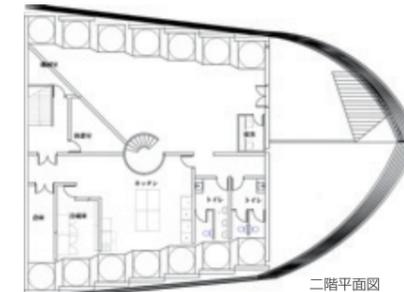
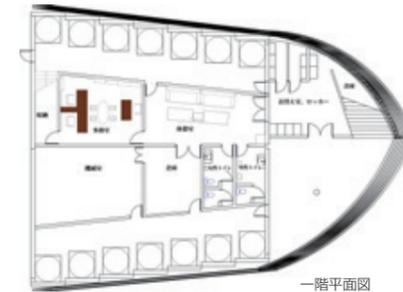
水族館レストラン IN TAIWAN

許 璋倫 [制作]

解説

建物に沿って回り込んだ虹でトンネルのような雰囲気表現した。また石造の階段を上がり、少し遠回りする感覚で期待感を膨らませるようにしている。なお、一階内部は主にスタッフ用と水槽管理用の空間である。二階のレストラン入り口を入ると、七つの大きな水槽が見える。

この水槽は、一本ごとに色ずつのディスクが多数泳いでおり、天井からの光を通すと虹色の水槽に見える。また真っ白な床に映った影は月虹となり、幻想的で都会人に高揚感を与えると考えた。食事空間は螺旋階段を中心にスキップフロアのように上階へと上がれるようになっている。食事空間の上部は吹き抜けになっており、どこに立っても四周が虹に囲まれる空間となっている。三階には露天の空中花園があり、桃源郷に辿り着いた感じになるようデザインした。



天の川

小学校のリニューアル計画

イジュンゴル [制作]

解説

生徒たちがこの学校で人生初めての社会を学んで一人一人が天の川のように輝いて欲しいと思い、たくさんを見て、学び、得て欲しい。キーワードはMEMORY(記憶)である。良い場所は記憶に残り、記憶は良い思い出を作る、楽しい記憶を作れるような空間設計をしたいと思う。そして以下のことを考察しながら設計をした。

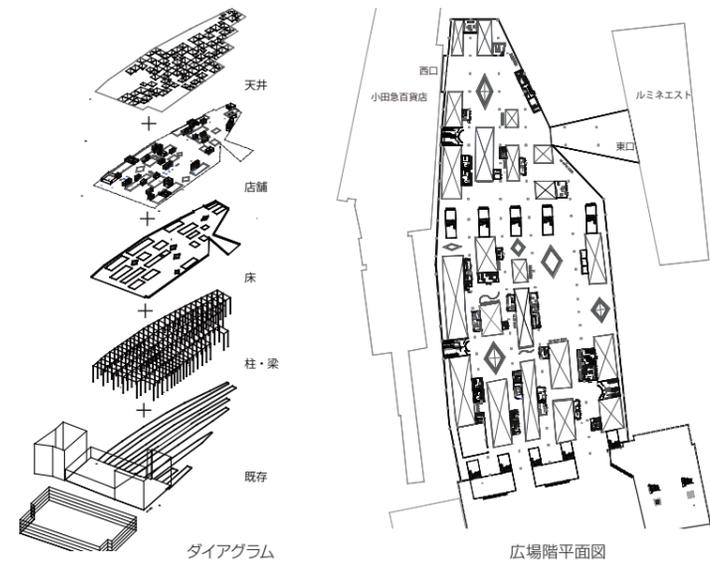
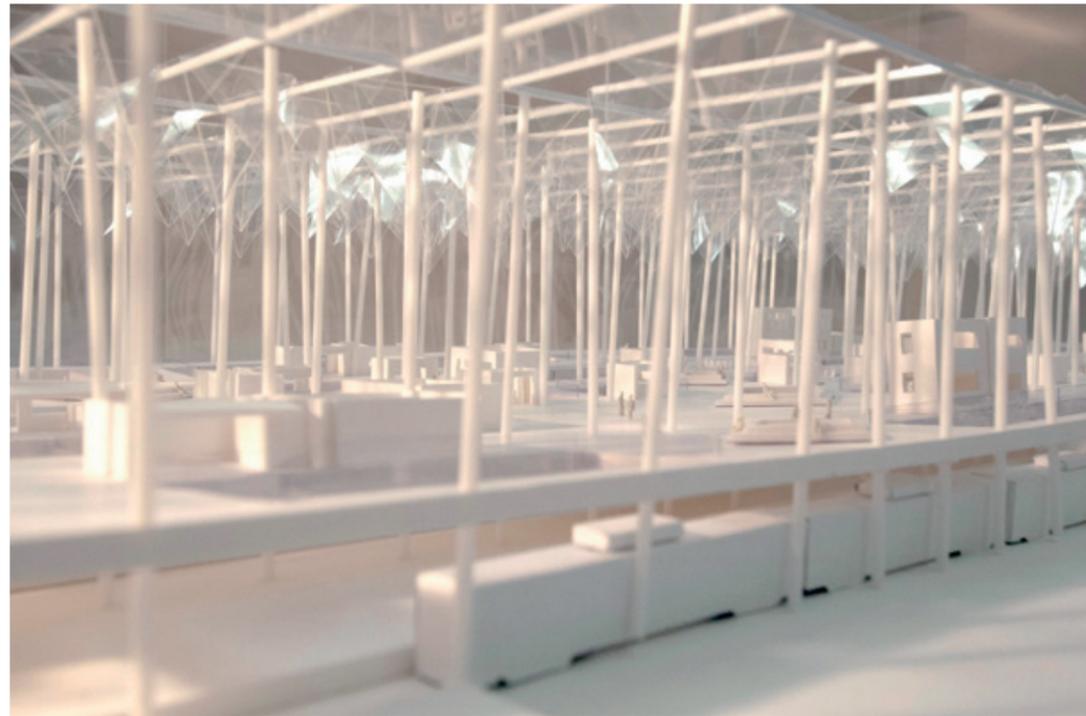
- ①建物内部に十分な採光—外壁に凹凸をつくって奥まで採光をとる。
- ②気軽に利用できる外部空間—休み時間に教室の中だけでなく、空を見上げたり、走ることができる。外壁の凹凸が教室横のバルコニーになる。
- ③市民に開放的な学校—学校の施設を市民に貸す。
- ④想像力、創意力を向上できるような外観—外壁の凹凸がそれを生み出す。

学長賞



Brilliant Square

吉田 彩華 [制作]



解説

新宿駅がもっと明るく人と駅と街が繋がり、賑わいのある駅となるような改修計画を提案した。構内で唯一広い空間を確保できる既存ホーム上空に、誰でもふらっと立ち寄れる新たな広場を南口の地上レベルに合わせて設置し、駅全体にガラスの大屋根を被せた。柱スパンごとに角錐型で括ったガラス屋根は、新宿区の地形をモチーフに土地の高低差と角錐の頂点を連動させることで、明るい自然光がプリズム状に降り注ぐ設計とした。

プロセス

日々通学で利用している新宿駅に漠然と疑問を感じていた。ヨーロッパの駅を利用した際、日本の駅との違いに気づき国内外の駅を数例調査し比較した結果、新宿駅にはシンボル性と滞在機能が不足していることが分かった。また、駅は街の玄関口として土地に根差したデザインにするべきだと考え、新宿の歴史や現状を調べ把握した。これらのことを踏まえ、単なる利便性の追求ではない、「人」「駅」「街」が繋がる駅を計画した。



講評

日本の主要駅は、同じようなデザインと機能で面白くない。また、ヨーロッパの駅と異なり切符やICカードで構内に入らなければならない、市民が自由に利用できる憩いの場としての機能も持たない。この作品は、そんな日本の副都心にある新宿駅に、ガラスの大屋根に覆われた明るい新たな空間を生み出すことにより解決を図ろうと挑んだものである。単なる利便性を追求したデザインではなく、都市や駅そのものの在り方を問うたところが評価できる。

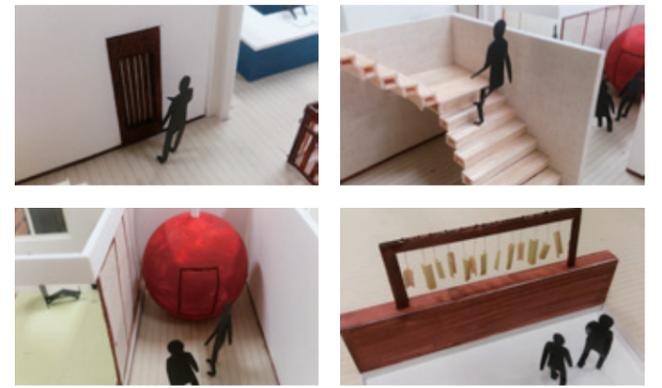
家音 ienone

音を感じる暮らし

齋藤 真由 [制作]

解説

住宅の騒音問題は、希薄な近隣関係とも相まって社会問題の一つとなっている。そこで、生活音の聞こえ方を変え、家から生まれる音を自然に感じ音で見守り合いながら暮らすコレクティブハウス型集合住宅を設計した。上下階の音の伝わり方に変化をもたらすため建物を凹凸にすらすと共に、木琴をイメージした階段、ハーブのような引き込み戸、声が響き渡る球体ルーム、風が通ると音がする竹音といった音の仕掛けをあちこちに設けた。



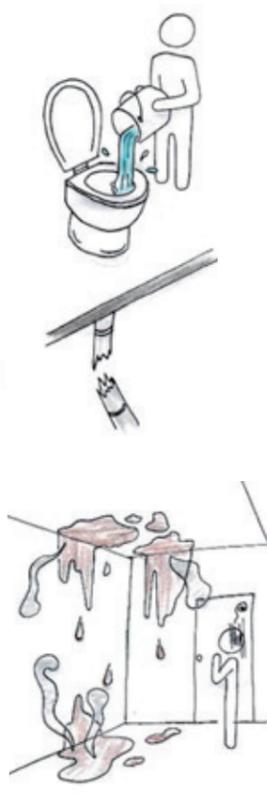
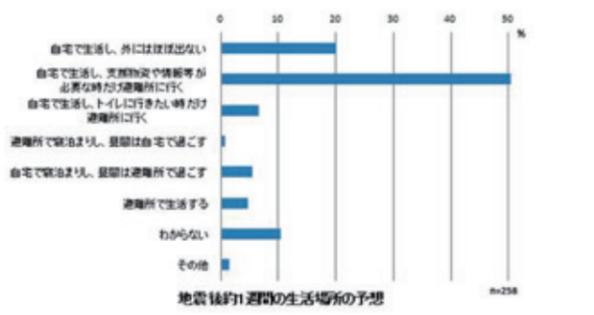
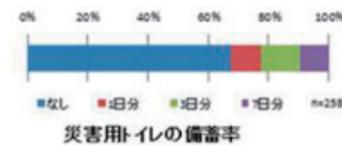
首都直下型地震を想定した高層集合住宅居住者の自宅滞在型避難生活に関する研究

家庭における災害時のトイレ対策に着目した分析

宮崎 礼 [論文]

解説

首都直下型地震を想定した自宅滞在型避難生活時の衛生的な問題を解決するため、実際の東京都23区の高層集合住宅居住者における防災知識や意識、トイレ対策の現状を調査した。結果、多くの居住者に自宅避難の意識はあるが被害と復旧の予想が甘いことがわかった。備蓄準備は不十分で、避難所の支援を頼る傾向が強く、排水制限や汚物ゴミ処理の知識不足でマンション防災対策の実施率も低い。不適切な行動による衛生環境悪化が懸念される。

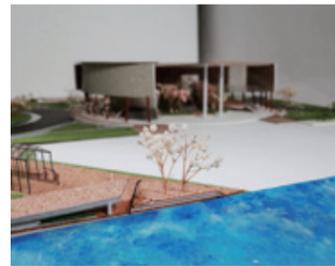


学長賞



Notos 分断70年、 ひとつのところで世界に飛び立とう!

李 宣 晔 [制作]



解説

韓国と北朝鮮統一のシンボルとなる「Notos」駅を北朝鮮ナジンに計画した。「Notos」は北風を表し韓国では負のイメージを持つが、北風が吹いてもお互いに支えあうことを意味し駅名に取り入れた。駅舎は「人」と「風」をモチーフにデザインし、1階は南の風を感じるように韓国に向かって開放し、2階へはどこからでもアクセスできるよう合理的な動線を計画した。ナジンの自然を感じながら、人と人の交流と共感ができる空間である。

プロセス

北と南に分断された韓国と北朝鮮、この国の人々は離散家族や休戦や人権問題などの辛い問題を抱え統一を念願している。真の統一とは、韓国と北朝鮮の人々が心をひとつにすることであると考へ、北朝鮮で唯一開放された自由経済貿易地域であるナジンに注目し駅舎を計画した。この駅は釜山から羅津市を経てロンドンを結ぶユーラシア鉄道の駅であり、南と北の円滑な交流を目指し、未来は世界へという統一のシンボルとした。

講評

韓国・北朝鮮、南北の統一を図るといふデリケートな研究テーマを留学生ならではの視点で取り組んだ。人と北風をモチーフにした駅舎は、東は海、西は山に囲まれた周囲を力強く治め、安定と平和を強調している。人と鉄道が交流するシンプルな駅は、ナジンの場所性を活用したものである。この作品は優れたデザイン性の他、国・地域・民族などのバリアを超え南北の統一、人類の融和を視野に入れた提案であることを評価した。

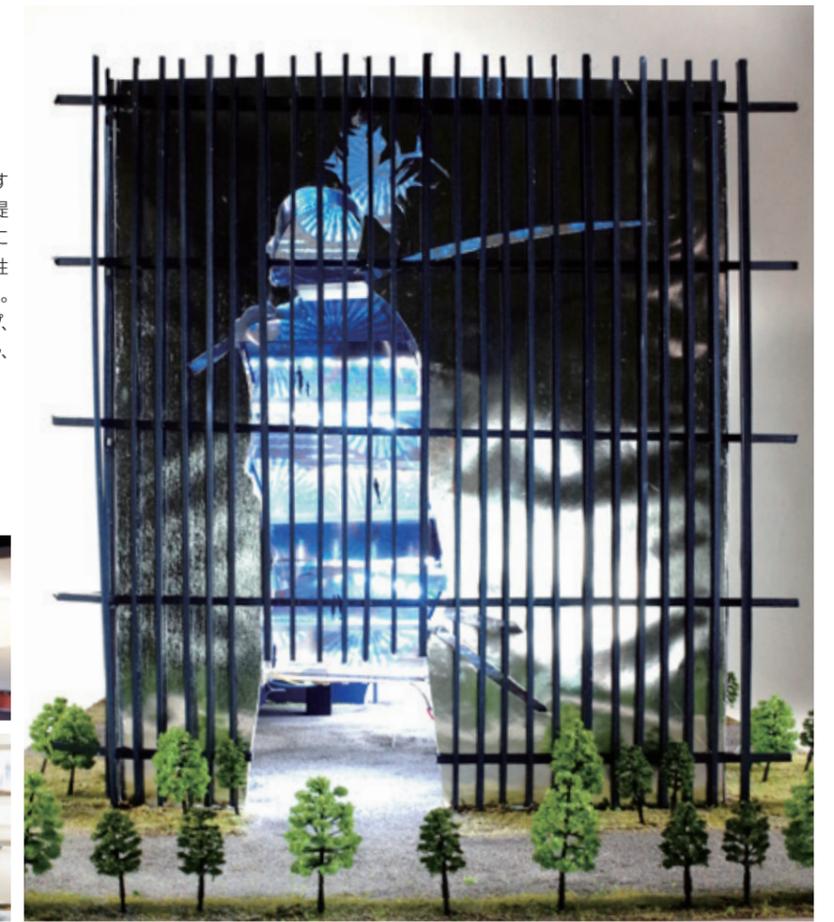
藍

Cool Japanを感じるテーマパークの提案

大石 愛 [制作]

解説

2020年の東京オリンピック向け外国人観光客が増加する都心で、日本のクールな文化を総合的に体験できる場を提案する。新旧の日本文化のモチーフを型どった外壁は、夜になると照明で浮かび上がる。内部は二重螺旋構造で回遊性を持たせ、シンプルでありながら奥が深い日本を表している。9層からなるフロアーには、ファッションやアニメのショップ、100円ショップ、ドラッグストア、飲食店、銭湯、カプセルホテル、劇場等が入り、クールジャパンを短時間で楽しめる。



S × S2

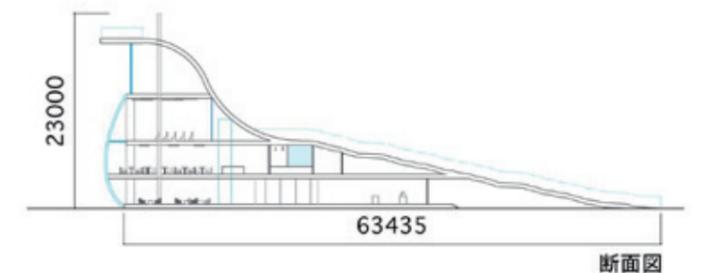
神聖な海に誓うための式場の提案

望月 佑妃子 [制作]



解説

神聖な海に長い髪の少女がヴェールを纏い、祈りを捧げ誓うイメージと、古代の出雲大社のイメージを重ね合わせたカタチを創出した。東北の地にこの象徴的な式場をつくり、結婚することで新たな希望を未来につなげていくシンボリックな、高さ20m、地上4階相当からなるスロープ状のフォルム。1階は、オープンカフェ、2階は披露宴会場。外部の白いスロープを2人で歩いていくと3階のチャペルに入れる。さらに内部の螺旋階段を登った4階は、2人だけの神聖な場、海、そこに浮かぶ水平線、そして天地の垂直線の交わるところに十字架が生まれる。さらに登ると海風と広大な景色が2人を迎える。



断面図

学長賞



さあ、ここから

田代 夏帆 [制作]



解説

北欧のデザイナー、オーレ・アンダーソンのデザイン理論に基づき、心のケアの必要な人が、常に人間らしいおだやかな状況でいられるデイケア施設のデザインを行った。建物は、敷地内に五棟から構成され、それぞれ詩人谷川俊太郎の自然感溢れる詩のテーマが展開された空間デザインとなっている。更に、施設の案内のメッセージとして BOOK 形式のビジュアルを制作。谷川俊太郎の詩を取り入れ、空間の説明が促されるよう編集を行った。

プロセス

大切な人の心のケア生活を見守る中で、あまりに無機的で味気ないケアの現状に疑問を抱いたことがきっかけで、五感の回復を目的とする患者にとって、もっと心地の良い空間をデザインしたいと考えた。アンダーソンの「Room for Care」をはじめとする文献や、現地調査によって人とモノとコトと空間の関係を研究。又、翻訳者である谷川俊太郎の「言葉の持つ癒しの効果」をデザインの要素に取り入れたことも私の空間デザインの大きな特徴だ。

講評

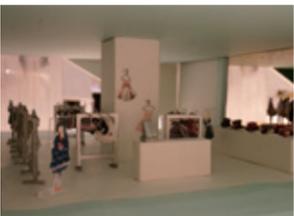
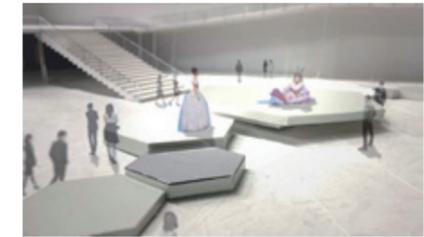
日本ではケアと療養の環境デザインより経済政策が優先される。このことに胸を痛めた作者の計画は、5棟の空間デザインからなり、風と光を感じ、土と緑に触れ、香りに癒しを見出す五感回復プログラムの実践の場である。解放された空間構成は、人に向き合い、人の心に寄り添い支援することの尊さを静かに語りかけている。「空間の在り方こそが、生きることへの希望と癒やしをもたらす」という視点が十分に活かされたデザインを評価する。

Knock on the Dream...

栗原 小春 [制作]

解説

観客の心が知らぬ間に演目の世界に入り込んでしまう演劇空間を計画した。五感を研ぎ澄ましながらストーリーの展開を味わう空間になっており、ステージは観客席と区別がない配置。また、建物内部に回廊が巡っており、移動とステージに成り得るという意外性をデザインした。また、グラフィックや観客用仮面に至るまでも含めた計画である。多くの人々が演劇の素晴らしい世界を全身で体感できるはずだ。



My colors

ポップカルチャーを世界へ発信する為の空間デザイン

安藤 榛香 [制作]

解説

ゴスロリ・原宿系ファッションは日本の文化と言われ、世界では Kawaii 文化として受け入れ始めている。だが周りから良いイメージがない。偏見を受けず自由に表現できる商業施設 My colors を提案する。体験ブースで色々な角度からファッションを知る場やイベントの交流場を提供し、SNS を通して日本から世界へ発信する為の空間である。「日本から発信」で和の要素「矢継の矢」を取り入れ、「外から矢形の光が降り注ぐ空間」「傾斜天井に囲まれたブランドブース」等で構成した。

2015 造形学部 卒業研究展 レポート

The Exhibition of Graduation Works



平成 28 年 2 月 5 日 (金) ~ 8 日 (月) に新都心キャンパスの 20 階 3 会場で、デザイン、建築、アート、工芸の作品と論文 160 点余りが発表されました。全学生の学びの集大成として、展示にも工夫を凝らし個性的なブースが並び、会期初日には学長賞プレゼンテーションが開催され、外部の方にも御参加頂いた盛況なものでありました。多数の卒業生、保護者、高校生、企業の方々にご来場いただきありがとうございました。



學展 GAKUTEN2015 に出展



昨年に続きデザインフェスタ事務局が主催する、学生のためのアートイベント「万国学生芸術祭 (通称: 學展 GAKUTEN2015)」にキャンパスブースを出展しました。夏祭りをテーマにデザインされたブースでは 1000 点を超える作品が展示・販売され、参加学生は来場者との交流を通して、今後の自己発信につながる多くの貴重な経験を得る事ができました。

会期: 2015 年 8 月 8 日 (土)・9 日 (日)
会場: 東京ビッグサイト (東京国際展示場)
関連サイト URL: <http://www.gakuten.jp>



造形学部プレゼンフォーラム

主催 文化学園大学 造形学部
共催 株式会社オンリーワンクラブ
後援 独立行政法人環境再生保全機構
文化学園国際ファッション産学推進機構
協賛 明治大学

造形学部プレゼンフォーラムの意義

「造形学部プレゼンフォーラム」は 2005 年に文科省の特色ある教育プログラムの GP 特別企画として発足、その横軸連携型教育内容を造形学部の特徴と位置づけ、回を重ねてまいりました。生活に根ざしたモノづくりや、デザインの内実を豊かな感性で追及する造形教育の成果として、学生が作品のプレゼンテーションを行い、学科・コースを超えて共有することで、各自が視野を広げ、自己を客観的に理解することを目的としています。また、教員間においても教育内容などを相互理解し、専門教育活動へ繋げています。運営には、毎年教員と学生で構成される委員会を立ち上げ、社会の変化に対応した企画を検討し行っています。今年度は新たに株式会社オンリーワンクラブとのコラボレーションで開催しました。

なお 2012 年より明治大学で行われている e-Presen Contest with Friendship に参加しています。また昨年度より独立行政法人環境再生保全機構による環境再生保全機構賞も新設されました。

THEME

第 11 回文化学園大学造形学部プレゼンフォーラム・デザインコンテスト

『くらしを豊かにするエクステリア』

学生連携企画
第 11 回文化学園大学造形学部プレゼンフォーラム・デザインコンテスト
『くらしを豊かにするエクステリア』
応募期間: 2015 年 6 月 15 日 (月) ~ 7 月 10 日 (金) 17:00 迄

「くらしを豊かにするエクステリア」
テーマに基づいたプロダクトや空間を応募用紙にデザインし提出してください。
※応募資格: 作品とアイデアを兼ね備えていること。
【例】「色、風、光、香りを感じる」「四季折々の暮らしを感じる」「コミュニケーションが生まれる」「子供が安心、安全に遊べる」「街々や家庭など様々な場所を学ぶ」「育てる楽しさを伝える」「地域との交流を促進する」

【賞金】
最優秀賞 (各学科 1 点: 5 万円 + 韓国研修旅行 + 賞状)
優秀賞 (4 点: 3 万円 + 賞状) 入賞 (4 点: 1 万円 + 賞状)
環境再生保全機構賞 (1 点: 賞品 + 賞状) 特別賞 (10 点: 賞状)
※1 等賞金受取は 5 月 31 日、2 等賞金受取は 6 月 15 日までに完了してください。

【審査員】
大塚 博 (文化学園大学造形部・造形学部長) 渡辺 博 (株式会社オンリーワンクラブ) 和田 広 (株式会社オンリーワンクラブ)
中島 洋 (独立行政法人環境再生保全機構) 小澤 浩志 (独立行政法人環境再生保全機構) 川口 洋 (文化学園大学造形部) 山本 浩 (文化学園大学造形部)
白井 信 (文化学園大学ラフ・プロダクト) 藤田 雅子 (文化学園大学インテリアデザイン) 丸山 幸子 (文化学園大学インテリアデザイン)

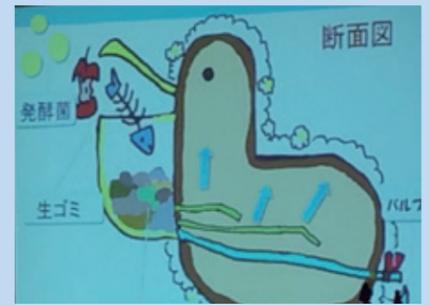
【応募要領】
デザイン学科: 生活造形科・造形文化研究 (A147) 建築・インテリア学科: 建築デザイン研究 (A162)
【募集期間】
募集期: 6 月 15 日 (月) ~ 7 月 10 日 (金) 17:00 迄
【応募要領】
2015 年 6 月 15 日 (月) ~ 7 月 10 日 (金) 17:00 迄
募集要領を必ずお読みください。詳細は募集要領をご覧ください。
募集要領: <http://www.gakuten.jp>

共催 株式会社オンリーワンクラブ 後援 独立行政法人環境再生保全機構 協賛 明治大学

デザインコンテストポスター



最優秀賞 **フラワーコンポット** 中西 咲
 [生活造形学科 3年 アートワークコース]

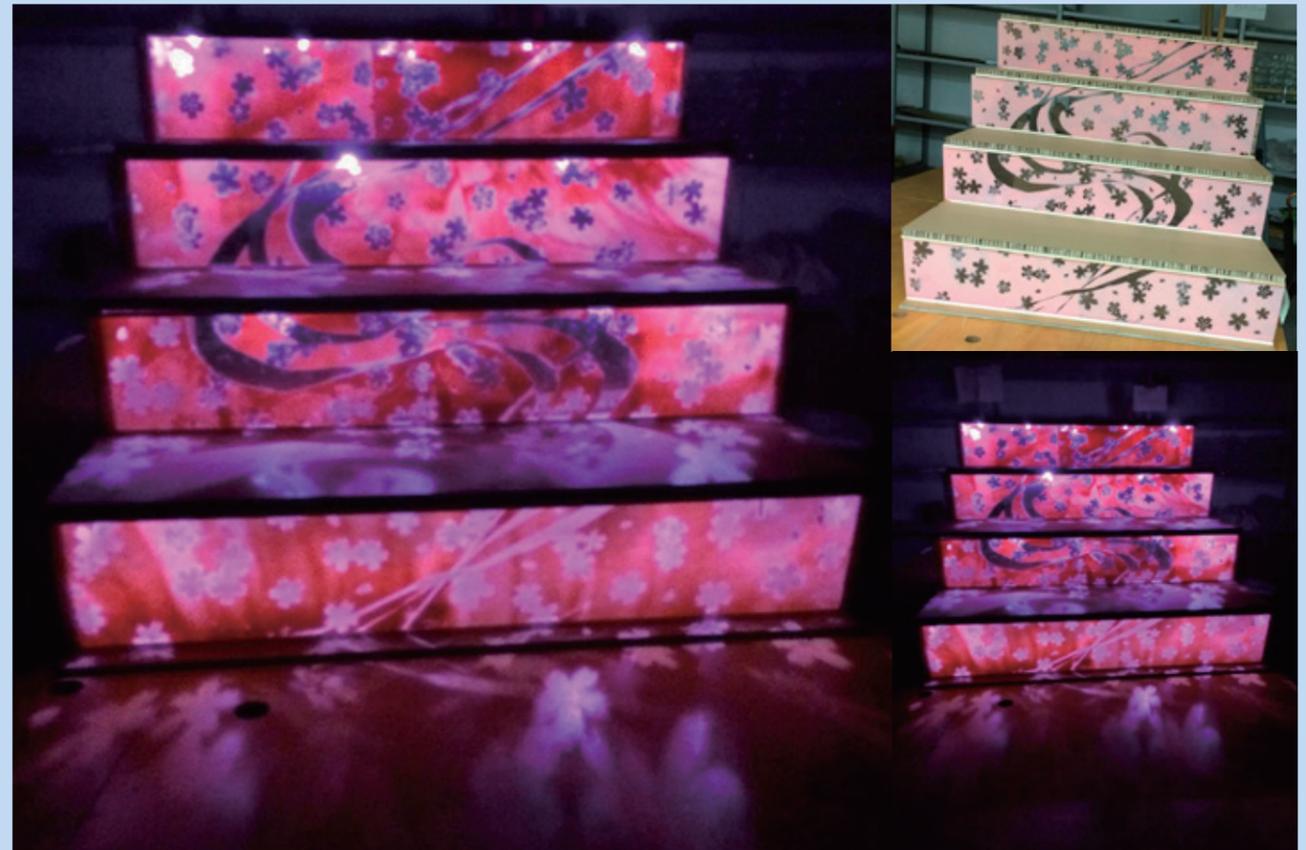


●**本人メッセージ** 作品の構造やコンポットの性能等、理屈的な部分は一次審査の際に考え詰めていたのですが、3分という短い時間内で、作品を分かりやすく伝えるというプレゼンにおいて非常に苦労しました。最も伝えたい点や、この作品をはじめ観る方が求める情報について考え吟味し、様々な方に客観的な意見を頂きながら制作しました。納得のいく作品となったことをとても嬉しく思います。

●**コンセプト** 「子どもの成長におけるあらゆる“きっかけ”となるようなエクステリア」として、生ゴミを使って肥料を作る容器“コンポスト”と、植木鉢を組み合わせました。子どもでも分かりやすく、楽しく関わることができるようにとペリカンの口に生ゴミを入れることによって液体肥料が作れるようになっています。見た目だけではなく、嫌気性発酵のコンポストを用いる等、実用面にも留意しました。

審査員のコメント 審査では、デザイン性と併せてその提案の社会的必要性や実現可能性を重視して選定をさせていただきました。またプレゼンにおける提案の根拠に納得感のあるものも受賞作品には多かったと思います。今回のテーマであるエクステリアの領域は、学生にとって難しい分野だったと思いますが、着眼点が独創的なものも垣間見えとても有意義な機会となりました。杉原広宣（オンリーワンクラブ）

最優秀賞 **空間を演出する階段** 山口 みなみ
 [建築・インテリア学科 1年]



●**本人メッセージ** 今回のテーマが「暮らしを豊かにするエクステリア」だったので、自分なりに「豊かな暮らし」とは何か深く考えるきっかけとなりました。また、審査会では先輩方の作品と自分の違いや課題に気づく事が出来たので、今回のプレゼンフォーラムで得られた事は本当に大きいと感じると共に今回選出いただいた事への感謝の気持ちで一杯です。韓国研修旅行では、やはり初めて経験する事が多く、とても良い刺激を頂きました。

●**コンセプト** 「暮らし豊かにする」というテーマから、日々使うものを「面白く」することで暮らしを豊かに出来ないかと考えました。私の中で階段は昇り降りが辛いもの、というイメージでしか考えられなかったため、階段をデザイン性のあるものにしよう!と決めて作りしました。

審査員のコメント 「くらしを豊かにするエクステリア」に向けた応募作品を、あらゆる観点から総合的に審査・選定を行う審査委員を務めさせていただきました。現在の生活をより快適にするものや街を行きかう人々が楽しくなるようなアイデアが出され、学生さんの柔軟な発想力を拝見することができました。地球規模で進んでいる環境問題の解決に向け、デザインから挑戦してくださることを期待します。中島邦子（環境再生保全機構）



優秀賞 お知らせインナー Phone

星野 紀也 [生活造形学科 4年 ジュエリー・メタルワークコース]



●**本人メッセージ** この世にあったら便利なモノを発想するのはすごく簡単な事だけど、良い製品と呼ばれるモノを造る為には、機能面・安全面・経済面など、さまざまな方向から視た問題点を一つ一つ解決していく必要があることを学びました。

暮らしアイデア賞 傘かけ

茂木 沙織 [生活造形学科 3年 ジュエリー・メタルワークコース]



●**本人メッセージ** 「今既にある豊かな暮らしをもっとより良くする」と解釈し、身近なものから発想しました。掛けられ、干せる傘かけであり、機能性とデザイン性の両面を意識しました。

優秀賞&環境再生保全機構賞 アニマル型活力剤

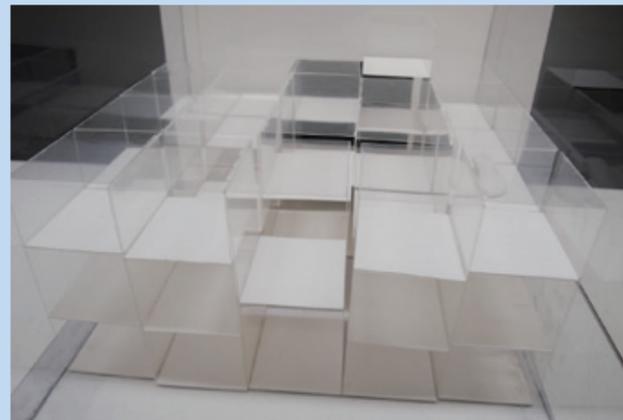
遠藤 樹 [生活造形学科 3年 テキスタイルワークコース]



●**本人メッセージ** 今回私がプレゼンした「アニマル型活力剤」はその名の通り、動物型の植物用活力剤です。それ以上でも以下でもありませんが、この作品がこれに目をとめた方々の人生において、指一本ほどの余裕を生み出す作品になっていれば嬉しいです

空間発想賞 中玄関

千葉 真理 [建築・インテリア学科 1年]



●**本人メッセージ** 今回、プレゼンフォーラムでエクステリアをやらせてもらった事で改めてエクステリアを見つめ、私なりの形として外を身近に感じれる新しい空間があればいいなと思えました。1つの括りの中でも様々な観点があり、考え方がある事を身を持って知る事ができました。

優秀賞 プレイウォール

星野 紀也 [生活造形学科 4年 ジュエリー・メタルワークコース]



●**本人メッセージ** デザインやモノづくりには、その目的を考えて、どんな事を伝えたいか、何を最優先すべきか、自らの意志を固めなければ、その想いは相手には伝わらないんだなと思えました。今回のプレゼンフォーラムを通して学んだ事を活かして、今後も良いモノづくりに励んでいきたいと思えます。

あそび心賞 レゴ支柱

志賀 湧斗 [建築・インテリア学科 1年]



●**本人メッセージ** 今回プレゼンフォーラムに出させてもらっているのと考えさせられることや学ぶことができました。先輩方のアイデアやプレゼン力、友達との協力、自分に足りないものなど、教えてもらいました。これらを活かし来年のプレゼンフォーラムに挑みたいと思えます。

優秀賞 Good morning Flag ~人々の絆~

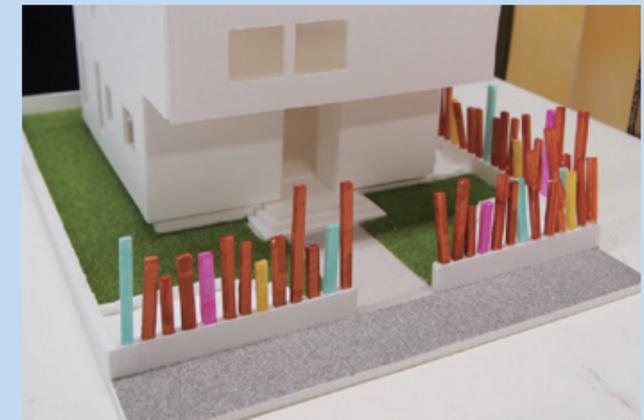
鬼頭 ろか [生活造形学科 3年 ジュエリー・メタルワークコース]



●**本人メッセージ** 『Good morning Flag』は「地域交流活性化を助ける旗」です。この旗は、社会問題「孤独死」の解決策として考えました。「孤独死」は高齢者の問題と思われがちですが、一人暮らしの若者が誰にも知られずなくなることもあり得ます。人々の交流が薄れた社会に旗を立てます。

景観提案賞 照明フェンス

遊佐 真友美 [建築・インテリア学科 1年]



●**本人メッセージ** 誰も思い付きそうで思い付かないものにしてよう意識して考えました。求められていることを把握し、それを踏まえた上で考えることの大変さがよくわかりました。今回のプレゼンテーションで新たな目標を見つけることが出来たと思えます。

特別賞 「番犬 柴犬くん!!」
吉江 歩実 [生活造形学科 4年 テキスタイルワークコース]
「新しいエクステリアによる緑化と娯楽の融合」
今井 裕大 [建築・インテリア学科 2年 建築デザインコース]

「育てて楽しむアンブレラハンガー」
加藤 涼葉 [デザイン・造形学科 1年]
「光の導き」
石田 佳澄 [建築・インテリア学科 1年]

「毎日楽しめる自動灯」
荒井 佑一 [建築・インテリア学科 1年]
「石畳パネルライト」
石井 晴菜 [建築・インテリア学科 1年]

「Circle Gate (円の門扉)」
篠田 陸 [建築・インテリア学科 1年]
「家族で楽しむポスト」
照井 里佳子 [建築・インテリア学科 1年]

「季節の風鈴ライト」
初見 佳南 [建築・インテリア学科 1年]
「自然を感じる柱」
山岸 陸人 [建築・インテリア学科 1年]

担当教員
委員長 久木章江
副委員長 渡邊裕子、嘉松聡
委員 井上揺子、谷口久美子、曾根里子、近藤静香、成井美穂、深田雅子

表彰式

表彰式 11月4日



審査員

審査委員長

大関 徹 [文化学園大学造形・色彩学研究室]

審査委員

- 武川 明広 [株式会社オンリーワンクラブ]
- 杉原 広宣 [株式会社オンリーワンクラブ]
- 中島 邦子 [独立行政法人環境再生保全機構]
- 小野 由記子 [株式会社小野意匠計画/インテリアデザイナー/文化学園大学非常勤講師]
- 白井 信 [文化学園大学グラフィック・プロダクト/映像クリエイション研究室]
- 丸茂 みゆき [文化学園大学インテリアデザイン研究室]

審査総括

これまでの明治大学および環境再生保全機構による後援・協賛に加え、今年は住宅関連資材販売企業「オンリーワンクラブ」との共催も実現しました。「くらしを豊かにするエクステリア」のテーマのもと、新しいエクステリア、環境構築を目指す作品が多く集まり、上位作品では特に「魅せるエクステリア」としての照明フェンスや階段、中玄関、傘かけ等、色彩や住宅外面装飾として実用的な作品が目立ちました。また、家から出る生ごみなどを無駄にせず自然に返す作品や、デザインがユニークな植物活力剤、レゴ支柱、家遊ぶプレイウォール、お知らせインターPhone、居住を知らせるフラッグなど、「エコや情報」を意識した作品も多く、幅広い発想が今回の特徴といえます。



明治大学と共同開催

「e-Presen Contest with Friendship 2015」

各大学でのコンテスト入賞者が共同でプレゼンテーションコンテンツ制作の研修を行います。

プレゼンテーション報告コンテンツ

第11回造形学部プレゼンフォーラムデザインコンテストの両学科の入賞者9名(10作品)が、シルバーストリームを使用したプレゼンテーション報告コンテンツを制作しました。

右記よりご覧いただけます。http://bwu.bunka.ac.jp/forum/index.php



韓国研修レポート

11月11日～15日の日程で韓国の大学を訪問し、嶺南大学校、全北大学校、韓東大学校、明治大学、文化学園大学の5校で「e-presentation contest with friendship」ワークショップを行いました。4チームに編成された学生が、価値観や文化の異なる人とのコミュニケーションを取りながら、慶州の名所旧跡などを取材後コンテンツを制作し、発表会を行いました。



学外連携

External Cooperation

地域社会とのつながりや産業界との共同活動など、学外との連携も大学の重要な社会的役割です。地域社会に息づく文化や産業を活性化させる作業を通じ、大学で学んでいる知識を実践する活動は学生の社会的視野を拡大してくれます。また、産業界とのコラボレーションは、実社会で必要とされる多岐にわたる社会的配慮や、コミュニケーションの重要性を肌で学ぶ絶好の機会です。今年度実施したさまざまな学外連携活動を以下に報告します。



● 地域連携 Regional Alliances

- 01 長野県須坂市における古民家再生プロジェクト [建築デザイン研究室・井上他]
- 02 多摩産材を活用した家具・インテリア小物のデザインと制作 [インテリアデザイン研究室・丸茂他]
- 03 染め物で町を元気にする「染の小道」 [染織研究室・佐藤他]

● 産学連携 Academia-Industry Cooperation

- 04 小田急フリーペーパー(小田急電鉄との連携授業) [造形文化研究室・牧野他]
- 05 ヤマヒサ季刊誌「カラコル」誌上掲載(株式会社ヤマヒサとの連携授業) [造形文化研究室・堀尾他]
- 06 小田急エキテリア(小田急電鉄との連携授業) [インテリアデザイン研究室・高橋他]
- 07 ロッテ商品開発部にコマース映像を提案 [グラフィック・プロダクト研究室・松本他]
- 08 (株)ヤマヒサのブランディングデザイン [グラフィック・プロダクト/映像クリエイション研究室・松本他]
- 09 「絆ジュエリー展2015」のためのジュエリー制作 [金工研究室・庄司他]
- 10 ネクタイコラボレーション展(東京ネクタイ協同組合との連携授業) [染織研究室・佐藤他]
- 11 デコブラインドコンテスト(株式会社ニチペイとの連携授業) [インテリアデザイン研究室・長山他]

01 日本の伝統建築で地元民との共同作業を通して未来を視る



◎担当教員
井上遙子（建築デザイン研究室）
渡邊裕子（建築デザイン研究室）
高橋正樹（インテリアデザイン研究室）
牧野昇（造形文化研究室）
佐藤百合子（染織研究室）
北岡竜行（絵画研究室）
伊藤丙雄（東京工科大学）

◎取り組んだ学生
造形学部1～4年生、
東京工科大学デザイン学科2～4年生
計14名ほど



長野県須坂市における古民家再生プロジェクト

夏休み合宿前半に行った、地元小学生（24名）対象のマーブリング染め＋古流蟬凧（コリュウセミタコ）のワークショップでは春休みにおやき作りで知り合った生涯学習推進センターの皆さんも参加。後半は台所拡張工事で床のモザイクタイル貼りに熱中した。

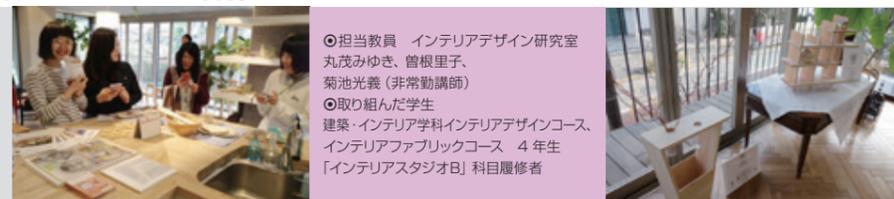


02 東京の木を知る・触れる・広げるプロジェクト



多摩産材を活用した家具・インテリア小物のデザインと制作

秋川木材協同組合との連携6年目の活動。現地見学により「国産材・地産地消・循環型生活」の大切さを学びます。(株)ヤマヒサとも産学連携して「地域にやさしい家具」のテーマで作品制作。目黒区のショールームで作品展を実施しました。



◎担当教員 インテリアデザイン研究室
丸茂みゆき、曾根里子、
菊池光義（非常勤講師）
◎取り組んだ学生
建築・インテリア学科インテリアデザインコース、
インテリアファブリックコース 4年生
「インテリアスタジオB」科目履修者



染め物で町を元気にする「染の小道」

新宿区の中井、落合地区で毎年開催される町おこしイベント「染の小道」に学外卒展、暖簾制作等で参加しました。今年は初の試みとして地元おかめ工房とのコラボ企画「きものファッションショー」を行い、学生モデルが活躍しました。





04 「地域をアピール！」小田急4駅でフリーペーパーを発行!!



小田急フリーペーパー

2012年から続く小田急電鉄と連携課題。今年は「新百合丘」「町田」「藤沢」「海老名」の各エリアを応援するフリーペーパーの制作を行いました。パン、和菓子、レトロ、子育てなど各地域の特色を生かした特集で小田急線各駅で配布を行いました。

◎担当教員
牧野昇、岡部隆信、平島毅、岡本茂樹

◎取り組んだ学生
メディア編集デザインコース4年生



05 東京23区の“町のお店”を誌上で紹介!



(株)ヤマヒサ季刊誌「カラコル」誌上掲載

メディア編集デザインコースでは、東京23区内でその町の生活や文化に根ざした“町のお店”を紹介する雑誌制作の課題を再編集(取材文、写真、レイアウト等)して、株式会社ヤマヒサが発刊する季刊誌「caracol(カラコル)」誌上で公開しました。

◎担当教員
堀尾真紀子、牧野昇、岡部隆信、森森次郎

◎取り組んだ学生
メディア編集デザインコース3年生

06 エキテリアの魅力アップ!



◎担当教員
インテリアデザイン研究室
長山洋子、高橋正樹
◎取り組んだ学生
建築・インテリア学科
インテリアデザインコース3年

小田急エキテリア

駅のインテリア「エキテリア」を大学生目線でリノベーション。駅の魅力向上をテーマに11班に分かれて企画・デザイン・提案を行いました。今年のお題は「大学生の視点で住んでみたい駅」。対象は百合ヶ丘駅と玉川学園前駅。最優秀作品等には小田急電鉄さんから豪華賞品が贈られました。

08 ショールームのイメージアップを企画



◎担当教員
グラフィック・プロダクト/
映像クリエイション研究室
松本章、星野茂樹、白井信
◎取り組んだ学生
生活造形学科 グラフィック・
プロダクトデザインコース4年

(株)ヤマヒサのブランディングデザイン

(株)ヤマヒサが目黒区碑文谷にオープンしたショールームのイメージアップの企画に、グラフィック・プロダクトデザインコース4年生が取り組みました。「企画立案」から「デザインの具体化」まで数回のミーティングとプレゼンテーションを経て、最終段階ではフリーペーパーやイベントの企画など具体的な作品提案を行いました。

10 東京ネクタイ協同組合とネクタイコラボ展



◎担当教員 染織研究室
佐藤百合子、
岡本泰子、近藤静香、
角谷彩子
◎取り組んだ学生
テキスタイルワークコース3・4年生
デザイン・造形学科1年

ネクタイコラボレーション展

今年度も文化祭時にネクタイ展示と表彰式を行いました。テキスタイルワークコース3・4年生はテーマ「フラワーファームタイ」(染タイ)「私がいT!~E!」(デコタイ)で現物制作を、1年生は東京オリンピックにちなんで「スポーツパターン」をテーマにデザイン画で参加しました。

07 クッキーのCM制作



◎担当教員
グラフィック・プロダクト研究室
松本章
◎取り組んだ学生
生活造形学科 グラフィック・
プロダクトデザインコース3年

ロッテ商品開発部に商業映像を提案

グラフィック・プロダクトデザインコースで毎年恒例の(株)ロッテとのコラボ課題、今年度のテーマは「薄焼きクッキー『チョコ』」のCM提案でした。5つのグループによるコンペを見事勝ち取ったのは、「チョコ歴史を語る篇」。優勝と準優勝グループのメンバーには、ロッテから豪華賞品が贈られました。

09 東日本大震災復興支援ジュエリーの制作



◎担当教員 金工研究室
庄司喜久美、押山元子、
春田幸彦、成井美穂
◎取り組んだ学生 造形学部
デザイン・造形学科生活デザイン
学科、建築・インテリア学科
服装学部 服装造形学科
現代文化学部 国際ファッション文化学科

「絆ジュエリー展 2015」のためのジュエリー制作

文化学園大学とNPO法人「絆」プロジェクト2030のコラボレーションで、第5回絆ジュエリー展を開催した。「ハーモニー」をテーマに、相田化学工業(株)開発のアートクレイシルバーを使用してジュエリーを制作した。

11 デコってインテリアコーディネート



◎担当教員
インテリアデザイン研究室
長山洋子、生井果歩
◎取り組んだ学生
建築・インテリア学科 インテ
リアデザインコース2年
◎連携先 (株)ニチベイ

デコブラインドコンテスト

ブラインドをデコレーションするコンペです。業界誌インテリアビジネスニュース誌による特別賞は庭野健太さんが選ばれ、小さな四角形にしたカッティングシートを配してパターンを描いたアイデアが評価されました。

■その他の活動

WEARABLE HOMES in Firenze

WEARABLE HOMES in Firenze

会期:2015年5月12~16日
会場:イタリア フィレンツェ サンタ・クロチェ教会第二回廊



フレンツェのポリモダ大学が主催したIFFTI (International Foundation of Fashion Technology Institutes/ 国際的ファッション学会) で、研究発表と同等に行われるインスタレーション、パフォーマンスへの出展に採擇された作品。衣服のような感覚で着られる(入る、潜る、乗る、冠る)家をイメージした造形をファッションと建築の両面から楽しんでもらいたいというテーマである。同コンセプトで進めてきた授業課題の担当教員と作品制作した学生の混合チームが参加した。

●関連サイト
IFFTI 2015 - Momenting the Memento | PERFORMANCES |
<https://www.youtube.com/watch?v=PexjhyCWp04>

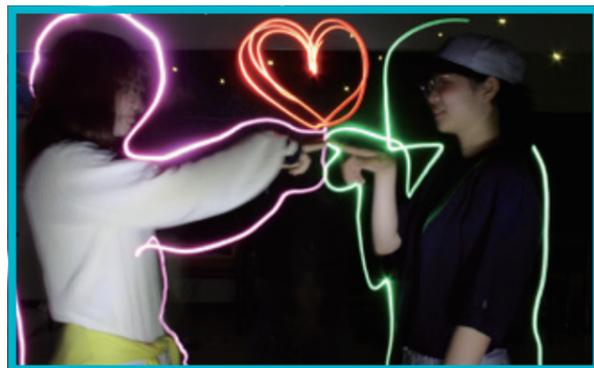
インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル (ICAF)

ICAF 2015 で映像クリエイションコースの作品を上映

会期:2015年8月28日~31日
会場:国立新美術館 大ホール

大学や専門学校の学生が制作したアニメーション作品を上映するイベント「ICAF」(インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル)。13回目の今年は29校が参加(主催:ICAF実行委員会、共催:日本アニメーション学会、日本アニメーション協会)。初出品の本学は、映像クリエイションの課題作品と個人作品、計5作品を出品。学生は、上映後に舞台上で制作の裏話などを披露しました。東京での上映後、北海道や金沢ほか6カ所で作品が巡回上映されました。

●ICAF ホームページ <http://www.icafinfo>



■学生の受賞

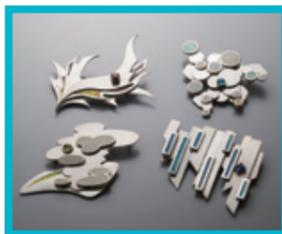
デザイン・造形学科

第9回宇和島パールデザインコンテスト (主催:宇和島地域ブランド化推進事業実行委員会)
入選 鬼頭ろか (ジュエリー・メタルワークコース3年) 豊野彩香 (グラフィック・プロダクトデザインコース3年)
高橋良太郎 (アートワークコース3年) 鈴木ユリア (アートワークコース3年)



第49回日本七宝作家協会展

奨励賞 増田 瑠
(ジュエリー・メタルワークコース2015年3月卒業)



第44回伝統工芸日本金工展21+部門

入選 鈴木映見 (ジュエリー・メタルワークコース4年)
須田啓太 (ジュエリー・メタルワークコース4年)



学生ネクタイコンテスト「ネクタイコラボ展」 (主催:東京ネクタイ協同組合)

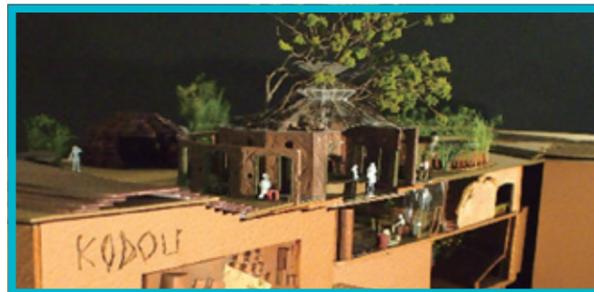
- デコタイ部門 優秀賞 吉江歩実 (テキスタイルワークコース4年)
佳作 加藤 涼 (テキスタイルワークコース4年)
遠藤 樹 (テキスタイルワークコース3年)
- 染めタイ部門 優秀賞 山内椎葉 (テキスタイルワークコース4年)
佳作 北田 梓 (研究生)、榎本未奈 (テキスタイルワークコース4年)
- デザイン部門 優秀賞 相原優奈、森山えりか、保坂早穂
佳作 杉本瑞季、田所麻優 (5名ともデザイン・造形学科1年)

第19回全国きものデザインコンクール

入選 福岡千夏 (研究生)

建築・インテリア学科

第37回学生設計優秀作品展 (通称:レモン展) レモン賞
岡井美奈 (インテリアデザイン 昨年度卒業生)



日本インテリア学会 第22回卒業作品展

優秀作品賞 中島有紗
(インテリアファブリックコース 昨年度卒業生)



デザイン女子 No.1 決定戦

オーディアンズ賞
岡井美奈 (インテリアデザイン 昨年度卒業生)

Portfolio Review 2015 建築・美術系学生ポートフォリオ展

特別賞 大石 愛 (インテリアデザインコース 4年)

木を活かす学生課題コンペティション

地域活動賞
倉林結子 (インテリアスタジオB履修4年生)

編集後記

今年も造形学部年間教育活動報告集「BZ」を無事まとめることができました。本学の共学化が始まった年に発刊された本誌では、「卒業研究」をはじめ「プレゼンフォーラム」や「学外連携」など通常の授業の枠を超えた活動に真摯に取り組む学生の姿をお伝えしてきましたが、今年度から全学年が共学となり、「卒業研究優秀作品」にも初めて男子学生の作品が掲載されました。次年度からは新カリキュラムが始まりますので、また新たな一面をご紹介できるかと思えます。今後とも文化学園大学造形学部の教育活動をご支援くださいますようお願い申し上げますとともに、この場をお借りして、ご協力いただいた皆様、また冊子の作成にあたりお力添えをいただいた編集デザイナーの廣田氏に心からの謝意を表します。

造形学部年間教育活動報告集編集委員
谷口久美子

文化学園大学

造形学部年間教育活動報告集 2015

●造形学部専任教員

安高信一	浅沼由紀	荒井知恵	井上揺子
岩塚一恵	大関徹	岡部隆信	岡本泰子
押山元子	角谷彩子	嘉松聡	加茂幸子
近藤静香	鳥海薫	北岡竜行	佐藤百合子
澤田志功	七里真代	柴田眞美	庄司喜久美
白井信	曾根里子	高橋正樹	谷口久美子
長山洋子	成井美穂	春田幸彦	昼間行雄
久木章江	深田雅子	星野茂樹	堀尾眞紀子
牧野昇	松田純子	丸茂みゆき	松村由樹子
松本章	安野彰	山崎裕子	横山稔
渡邊秀俊	渡邊裕子		

●造形学部年間教育活動報告集編集委員

谷口久美子	庄司喜久美
久木章江	嘉松聡
渡邊裕子	長山洋子
星野茂樹	

●写真提供

林敦彦	三守敬次	鈴木義明
小林且典	アイキ元	

●デザイン

hirotaS / 廣田武志

●発行:2016年3月11日

●発行者:文化学園大学造形学部
堀尾眞紀子

〒151-8523
東京都渋谷区代々木 3-22-1
TEL. 03-3299-2310
FAX. 03-3370-6202
<http://bwu.bunka.ac.jp>



文化学園大学

造形学部 デザイン・造形学科 建築・インテリア学科

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1

TEL. 03-3299-2302 (造形学部長室)

<http://bwu.bunka.ac.jp/index.php>

BZ

BUNKA ZOUKEI